

第30回森吉山麓高原自然再生協議会 議事概要

1 令和6年度事業実績と令和7年度事業概要について

質問者等	概要
委員	宿泊型環境学習会の参加者の居住地はどうか。
事務局	全県から参加している。県央・県南からも広く参加している。
委員	どこに宿泊しているのか。
事務局	初心者向けの事業であるので、奥森吉青少年野外活動基地の管理棟の中にテントを張って宿泊する形としている。
委員	令和7年度の企業活動はどのような経緯で実施することとなったのか。
事務局	当該企業による県内での環境保全活動は以前から続けられている。これまでは県内の別の地域で活動していた。今回ここでの活動に区切りがついたため、当課で本事業を紹介したもの。複数年単位で続いていくことが期待されるため、事業を長く継続してもらえるよう関わっていきたいと考えている。
委員	こちらで必要と考えている動きである。長く継続してほしい。
委員	植樹事業について、植樹の方法はどのように検討してきたのか。今は苗木でやっているが、計画当時から苗木ということをやってきたのか。
委員	計画の当初は苗木がないため、近隣の地域から移植する形をとっていた。
委員	2005年頃にブナが豊作だった時期があり、その頃に森吉山麓高原で採取した種子をもとに林業研究研修センターで苗木を作り、これまでその苗木を使ってきた。
委員	計画時には直播きの意見もあったが、万単位の種をまいて数本しか育たないという研究結果もあり、苗木の方が効率が良いと判断したものである。
委員	計画としては、苗の植樹で島を作り、それが広がっていくということを想定したものとなっている。
委員	島は30m×30mとし、それを地域に点在させる形としている。
委員	面積的に全てに植樹することは難しいため、島状植栽という方式をとっている。草地部分の間隔が狭い箇所については森林部分からの天然更新を期待している。全てをブナ林としようとするものではなく、水分が高く陽樹が生育している区域などはこれらの樹種による遷移にゆだねている。

## 2 令和6年度モニタリング調査と令和7年度森林再生状況の調査について

質問者等	概要
委員	これまで不明だった成果について、数字として確認できたのは大きな成果である。
委員	島から外への広がりかどうか。
センター	植樹を行ってまだ13年目である。大きいものでも3mである。まだ種を飛ばすところまで生育していないため、外への広がりにはまだ時間が必要である。今後は鳥散布の動きもでてくると考えている。
委員	島からの拡大ではないが、天然林については広がりを見せている。
委員	島と島が繋がるにはどの程度かかるものか。
委員	数十年かかるだろう。ブナの散布距離は短い。鳥散布による広がりとなるだろう。
委員	個人的にはもう少し鳥散布が早くでてくるものと考えていたが、鳥が止まる高さにならないと難しいのだろう。
委員	高木と低木はどのように判断しているのか。
センター	すべての高さを測ることはできないため、基本的には画像で判別している。
委員	今後は島の検証も必要である。植える際は全てが成長することを想定していたが、島によってはうまく生育していないところもある。適正な密度や大きさについても検証が必要。自然再生に取り組む地域はこれからも全国ででてくる。全国的に先駆けて実施してきたここでの成果を外に発信していくことも求められる。

## 3 第5期計画の策定について

質問者等	概要
委員	これまでの検証結果を計画に反映させてほしい。結論はもちろんこれからであるが、これまでやってきたこととの成果を入れ込むことは必要。今回のドローンによる調査結果は反映してほしい。
委員	自然再生基本方針が見直しされている。今回の改正で入ってきている項目や視点は取り込んでいく必要がある。
委員	国立・国定公園化の話もでてきている。計画の作成にあたっては其中での当該地域の位置づけについても考慮する必要がある。事務局には計画についての意見は適宜送ってほしい。計画のスケジュール

事務局	<p>ルはどのようになるか。</p> <p>今年の夏頃までにたたき台を作成し、意見等を集約し、年内には一度協議会として開催したいと考えている。欠席されている委員から一度是非現地に来て現状を見てほしいとの意見もあったので、機会を見て皆様にも案内するようにしたい。</p>
-----	--

#### 4 その他

質問者等	概要
センター	<p>林業研究研修センターでは、天然林のモニタリングサイトを作っている。このモニタリングサイトは7ヘクタールあり、全国でも国内最大級である。科研費を活用してブナ林土壌の水源涵養機能の研究を行っているほか、来年度はこのフィールドを活用して温室効果ガスに関する研究も新たに行っていくこととしている。国の研究機関等との連携の動きもできており、今後も様々な分野で積極的に活用していきたいと考えている。</p>